

みどり認定

有機農業

農薬・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

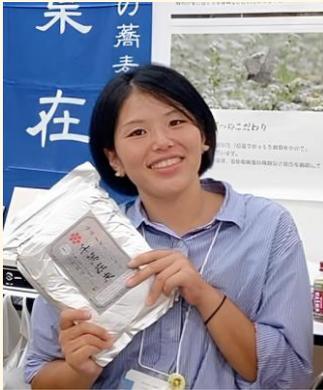
スマート農業省力化技術

食品ロス削減

国産、地場産の供給拡大

その他

株式会社千葉穀物（千葉県山武市）



【生産概要】（令和6年）

水稲:30ha 麦・そば・大豆・ゴマ:約100ha
千葉県（田30ha/畑60ha）茨城県（畑25ha）埼玉県（畑15ha）
福島県（畑2ha）

【経営概要】令和3年法人化 有機JAS農産物認証取得

従業員：常勤5名 アルバイト3名

代表取締役：藤田 友美【ふじたともみ】

【取組内容】遊休農地・離農後の農地による有機JAS栽培/自然栽培

◎ 取組の特徴

遊休農地の解消を重要視しており、経営戦略、社会課題解決の手段として有機農業×土地利用型（主に穀物）を選択した。水田は千葉県山武市周辺のみ。埼玉県、茨城県、福島県は畑のみ。大型トラクター（10ha処理可/日）により作業工程・作業時間が少ないため、4県にまたがって対応している。畑は播種・中耕・収穫・除草の年4回作業×2作、作業工程および使用機械もほぼ同じでコストを抑えられる。輪作体系は試行錯誤中。機械類は山武市から運搬し、収穫物は送風機付グレインコンテナで山武市に搬送して乾燥調製を行っている。耕作面積の目標は1,000ha。

◎ 取組のメリット

有機JAS認証を取得してから、有機農産物（主に穀物）の商流構築を独自に進め、現在、関連会社が日本料理屋と取引を行っている。そこから有機JAS栽培/自然栽培の原材料を求める加工事業者とのつながりができた。有機穀物の需要は拡大している。

○ 苦労している点

農地集積が一番の課題である。新規就農者の千葉穀物＝よそ者となり、まだ信用・信頼がない。人となり、実績が大事と考えている。

○ 今後取り組みたいこと

農地を農地として保全することが大切と考えている。有機穀物と有機野菜の生産者が連携し、輪作のなかで緑肥として麦を作付し、地域全体でのブロックローテーションや、有機畜産との耕畜連携、有機農業での新規就農者の支援、有機JASへの転換支援にも取り組みたい。

事務局所在地：千葉県山武市川崎84-1

HP：現在作成中

電話番号：0475-77-7576

e-mailアドレス：chibakokumotsu@gmail.com